

# 富岡製糸場聖地化プロジェクト

～世界遺産観光地の再活性化に向けた調査研究～

共愛学園前橋国際大学 岡井宏文ゼミ

## 1 研究の実施状況

※本研究の詳細な調査結果および考察は、別添の報告書をご参照ください。

- (1) 研究期間 2020年6月26日～2021年1月31日
- (2) 実施場所 富岡製糸場およびその周辺（富岡市役所世界遺産観光部富岡製糸場課・観光交流課、富岡市観光協会（含まちなかガイド）、トヨタレンタカー上州富岡駅前店、新洋亭、いりやま、馳走CO-JIRO、朝日屋、岡重肉店、花見せんべい、いづか時計店、カフェドローム、かわら屋、お菓子の扇屋）。その他文書等でインタビューにご回答いただいた。
- (3) 参加人数 共愛学園前橋国際大学岡井ゼミ在籍者13名
- (4) 研究内容

富岡への観光目的は、富岡製糸場や名所旧跡の訪問への偏りが指摘されている。現状において富岡は、世界遺産を擁する歴史的価値が人々を引きつけている。一方、本研究は、観光学における「聖地」に関する理論を元に、富岡には歴史的価値を有する場以外にも、個々人の思い出によって愛されている場（イベント的聖地、個人的聖地）が存在する可能性に注目した。以上の経緯から、本研究は、富岡のさらなる魅力や価値を、富岡にお住まいの方々の視点から探ることを目的とした。具体的には、地域の方がもつ富岡への個人的な愛着およびそのエピソードを伺うインタビュー調査を実施した。

## 2 研究の成果

聞き取り調査は、富岡市にお住まいの方や事業者の方々にご協力いただいた（計48名）。

調査の結果、富岡製糸場周辺の飲食店や自然、何気ない路地、製糸場のガラス窓など、多様な個人的な愛着が集まった。製糸場の中にすら、その人だけのニッチな愛着が息づいていた。これらの場への愛着は、個人的な記憶や体験のエピソードと結びつきが見られた。

また、場やもの以外に、人が大きな魅力となっていることが明らかとなった。イベントや絵手紙を媒介として、そこに住まう人とのつながりが生まれ、そのつながりが全国・世界にまで広がっていることが明らかとなった。人とのつながりが、富岡を特別な場所にしていた。

本研究では、富岡の何気ないものや思い出もよらない場所や人に、様々な愛着やエピソードが存在することが明らかとなった。そしてそれらは、ほかの誰かにとっても魅力となっていることが明らかとなった。聖地の類型に当てはめれば、富岡はユネスコや歴史によって価値が認められる場、すなわち「制度的聖地」としての性格を色濃く見いだすことができる。しかし、本研究の結果からは、富岡は、個人が特別な思い出や愛着を寄せる場所（「個人的聖地」）、さらにはそれが他者と共鳴して複数の人にとって特別な場所（「イベント的聖地」）となっていると考えられた。

富岡の魅力は、既知の魅力にとどまらない。地域の場所、もの、ひとなど全体に息づいているのである。そしてそれらは、他者から見ても魅力的なエピソードとともに存在しているのである。

だがこれらの思い出や愛着、エピソードは、他者が容易に知ることが難しい状況にあることが課題として見いだされた。

そのため、写真共有アプリ「インスタグラム」を通じて、今回の調査で明らかとなった場所の写真にエピソードを添えて紹介する試みを開始した。



富岡市役所観光交流課における聞き取りの様子



いりやまの入山寛之さんにお話を伺い  
「MABUSHI-ya 蔭屋」を見学させていただいた



富岡製糸場訪問の様子



インスタグラムへの投稿の例

## 【別添報告書】

# 富岡製糸場聖地化プロジェクト

## 第1章 はじめに

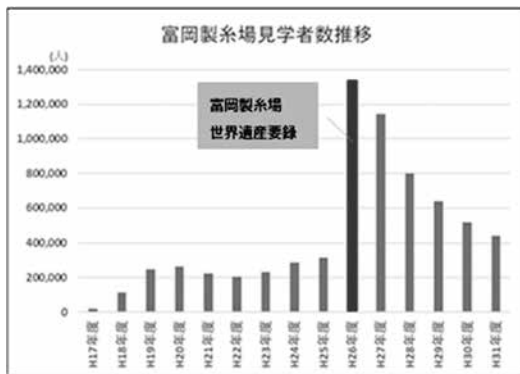
### 第1節 研究の背景

1872（明治5）年に官営の器械製糸工場として創設された富岡製糸場は、フランス技術を導入し、それまで出来なかった生糸の大量生産を可能にした。戦後には機械の自動化に成功し、自動繰糸機は世界各地に輸出された。富岡製糸場は技術革新と技術交流によって日本の近代化に貢献している。

富岡製糸場は田島弥平旧宅、高山社跡、荒船風穴と共に「富岡製糸場と絹産業遺産群」として、平成19年1月に世界遺産暫定一覧用に追加記載された。平成24年8月、日本政府がユネスコ世界遺産センターへ推薦書を提出し、平成25年9月に現地調査が行われた。平成26年6月21日、カタールの首都ドーハで開かれたユネスコ世界遺産委員会にて世界遺産登録が決定し、同月25日に正式に登録された。国内で18番目の登録となる。

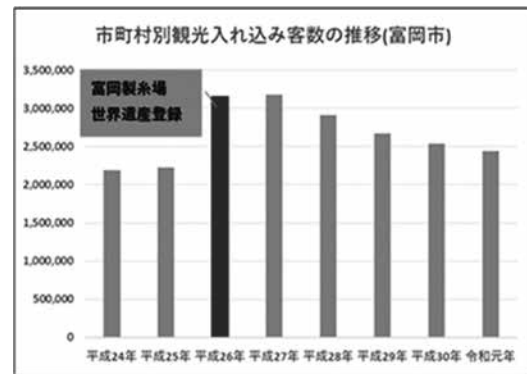
「富岡製糸場と絹産業遺産群」として世界遺産に登録後、様々なメディアで取り上げられ多くの注目を集めた。観光客の増加も著しく、群馬県が発表している『平成26年観光客数・消費額調査（推計）結果』によると、富岡市は製糸場の世界遺産登録前に比べ92万人増加している（前年比141.4%）（群馬県観光局観光物産課）。

ところが、富岡製糸場の来場者数を見ると、登録直後激増するも、わずか3年でピーク時の半分以下になってしまった。さらに、世界遺産登録前の平成24年から令和元年までの観光客数・消費額調査（推計）結果の「市町村別観光入込客数の推移」を見てみると、世界遺産登録後の富岡市の観光客入込数は富岡製糸場来場者数同様、一時的に増加したものの、現在は減少傾向にあることが見て取れる。



見学者数 | しるくるとみおか富岡市観光ホームページ(tomioka-silk.jp)より

図1 富岡製糸場見学者数推移



群馬県観光客数・消費額調査(推計)結果 <https://soukei.pref.gunma.jp/kankou/>より作成

図2 群馬県市町村別観光入込客数の推移(富岡市)

富岡製糸場来場者数減少の要因として、見学可能場所の少なさや遺産の価値が伝わりにくいことが指摘されている（『朝日新聞』2019.5.31朝刊）。一方現地では、見せ方に工夫がないわけではなくガイドやパネル設置による説明がなされている。しかし建物の状態を維持・保存するための修復や耐震工事により、約100棟の建物のうち3分の1ほどしか公開されていなかった。実は、平成15年から始まった工事は30年で完成することを目安としており、富岡製糸場の全体像が見られるのは当面難しいというのが現状である。

### 第2節 研究の目的

高崎商科大学地域連携センターにより実施された『富岡製糸場周辺における観光客満足度調査』の研究結果では、富岡観光の目的が「富岡製糸場や文化的な名所旧跡（史跡、寺社仏閣、城郭、歴史景観など）を見ること」と回答する人が圧倒的に多く、目的の偏りが指摘できる。

表 1 富岡の訪問目的

旅行前、富岡の何を楽しみにしていましたか？（○は、いくつでも）

	2018年		2017年	
	度数	パーセント	度数	パーセント
富岡製糸場や文化的な名所旧跡（史跡、寺社仏閣、城郭、歴史景観など）を見ること	319	78.6%	245	82.8%
自然景観を見ること	39	9.6%	43	14.5%
観光・文化施設（動物園や美術館）を訪れること	47	11.6%	56	18.9%
スポーツ施設（ゴルフ場など）を訪れること	4	1.0%	0	0.0%
まちなかを訪れること	56	13.8%	50	16.9%
自然の豊かさを体験すること	12	3.0%	6	2.0%
地域の文化を体験すること	19	4.7%	24	8.1%
温泉に入ること	38	9.4%	29	9.8%
おいしいものを食べること	67	16.5%	67	22.6%
買物をする	15	3.7%	26	8.8%
地域の祭りやイベント	27	6.7%	5	1.7%
帰省・冠婚葬祭関連・親戚や知人を訪問すること	2	0.5%	1	0.3%
その他	19	4.7%	13	4.4%
全ケース数 (n)	406		296	

出典：高崎商科大学地域連携センター（2019）『富岡製糸場における観光客満足度調査簡易報告書』

本研究では、地域住民や事業者などの個人的に好きな場所・景観・人など、世界遺産だけではない富岡の魅力及び対象地に関するエピソードについて調査することを目的とする。

## 第2章 先行研究～聖地について～

### 第1節 「聖地」と観光

本研究では近年観光学の分野においても用いられる「聖地」の概念に注目する。

聖地とは、『広辞苑（第6版）』によれば「神・仏・聖人などに関係がある神聖な土地」のことを指す。宗教社会学者の岡本亮輔は、聖地を聖地とする要素に「聖人・神・精霊といった超越的存在と場所を結び付ける物語」（岡本 2015:6）を挙げている。このような要件を満たすのはどのような場所だろうか。世界ではキリスト教におけるエルサレムやヴァチカン、日本では神道と結びつく伊勢神宮や出雲大社などが例としてあげられる。

また、このような聖地は「信仰者」にとって特別な場所であった。自らが信じる宗教と結びついた場所を訪れたり、その場に存在する聖なる痕跡を示すモノ（「アトラクション」）を見たり、祈る行為が古くから営まれてきた。キリスト教における「ロンギヌスの槍」や「キリストの墓」などは現代においても多くの信仰者を集めている。

信仰者は、その信仰する宗教の世界観において神聖とされる土地を訪れる。

そのような行為は、「聖地巡礼」と呼ばれる。聖地巡礼は、「宗教の創始者や聖人の誕生地・埋葬地のような生前関わりがあった場所、あるいは神や精霊といった存在と関わる場所への旅」（岡本 2015:6）と定義されている。

本来、この聖地巡礼は信仰者にしか価値がない。そのため聖地巡礼と、宗教的な意味を持たない旅である観光は別のもので捉えられてきた。しかし、近年は聖地と観光、巡礼と観光の境界が曖昧になってきている。それを端的に示す例に、「信仰なき巡礼者」の存在が挙げられる。2000年以降のカトリックの聖地サンティアゴ・デ・コンポステラでは、巡礼路を歩く人々が増えている。その巡礼者の中で増えているのは非キリスト教徒の巡礼者、つまり「信仰なき巡礼者」なのである。サンティアゴ巡礼の他にパワースポット巡りなどにも同様な傾向が見られるようになった。このように、現代の聖地巡礼は「信仰なき巡礼者」の登場・増加により、巡礼者とも観光客とも割り切れない人々によっても、営まれる行為なのである。

聖地巡礼と観光が結びつく状態の背景には何があるのだろうか。岡本は「世俗化」という社会の動きが影響していると指摘している。岡本によれば、「私たちが生きる現代社会は近代化を経て成立した。この近代化の歩みは、社会が宗教から解放される過程でもあった。簡単に言えば、このプロセスこそが「世俗化」である。『社会の大多数が超越的存在を信じていた状況』から『社会の大多数が超越的存在を信じなくなる状況』への移行が生じたのだ」（岡本2015:11）という。この「世俗化」の状況がなぜ、宗教的な場における観光者の存在を説

明するのだろうか。これは、奈良の東大寺の大仏などで例示することが出来る。本来、当地は信仰者にとって仏教にとって重要な場として認知されている場所である。しかし、実際には観光客で溢れかえっている状態にある。世俗化による宗教的考えの薄れが、奈良の大仏を訪れる人々の多様化を生み出したのだ。

もともと聖地は信仰者にとって宗教的な意味を含み、聖地巡礼をすることへの目的・意義があった。しかし、世俗化の過程は、聖地を訪れる人々の多様化をもたらした。

聖地を訪れる人の中に、純粋な信仰心を持って訪れる人から、観光目的の人、そしてどちらともつかない人まで、信仰と観光を両極とするグラデーションが生まれたのだ。

こうした状況が、聖地と観光を結びつけているのである。

## 第2節 聖地の4類型と世界遺産、富岡製糸場

本節では、さらに詳しく聖地について紐解いていく。特に聖地の類型に注目する。なぜなら、聖地の類型とその成り立ちを知ることが、富岡がどのような場所なのかを考える上で、重要な意味を持つからである。

宗教社会学や観光学において、聖地は4つの類型に整理される（岡本2015）。

1つ目は「制度的聖地」である。ある社会や文化圏において価値が疑われないことのない場所である。国教などその社会で歴史的に強い影響力を持ってきた宗教が定めた聖地、ユネスコのようなグローバルな組織が承認する場所を指す。

具体的にはキリスト教におけるローマやイスラームにおけるメッカ、日本の伊勢神宮などが挙げられる。原爆ドームなど、ユネスコが承認する世界遺産観光地もその中に含まれる。

2つ目の「共同体的聖地」とは、国家ほどの広がりを持たない特定の社会集団により支えられる場所である。京都の本願寺や天理市、身延山等が挙げられる。

3つ目は「イベント的聖地」である。そこは、一時的にその場所を共有する人々によって支えられる場所である。具体的には、パワースポットやアニメ聖地巡礼などがこれに含まれる。このほか、高校球児にとっての特別な意味を持つ甲子園などもイベント的聖地として捉えることができるだろう。

4つ目は「個人的聖地」で、一個人が聖地だと感じる場所である。家の墓や恋人との思い出の場所が挙げられる。

以上、聖地の4つの類型を確認した。この分類からは、2つの重要なポイントを導き出すことが出来る。

1つ目は、聖地は、宗教的意味合いを持つ場所のみを指すものではなくなっているということである。前節冒頭で聖地は、「神・仏・聖人などに関係がある神聖な土地」と定義されていた。しかし、この分類に従えば、世界遺産やアニメ聖地など、宗教的意味合いが比較的希薄な場所が聖地のありかたとして示されている。聖地の有り様や用法は、多様化しているのである。

2つ目は、何がその場所を聖地とするのか、その主体が多様であるということである。「制度的聖地」は、宗教やユネスコのような権威が、その場所を価値あるものとしている。一方、「個人的聖地」や「イベント的聖地」は、権威ではなく、人々の思い入れや愛着がその場所を聖なる場所としているのである。

以上を踏まえると、世界遺産を要する富岡は、まずユネスコというグローバルな組織によってその価値が承認された場所であると位置づけることが出来る。

しかし、その場所を「価値がある」とする主体は、権威だけではないことが上記の分類から示唆されるのである。富岡には、その他の主体によって価値づけられる回路は存在しないのであろうか。次節では、さらにこの点について掘り下げていく。

## 第3節 聖地の重複性

前節で述べた聖地の4類型にはもうひとつ特徴がある。それは聖地の重複性である。

聖地と結びついた観光も多く見受けられる現代において、ひとつの場所が複数タイプの聖地になり得ることが示唆されている（岡本2015）。例えば、明治神宮は明治天皇をまつる神社である。神道の世界観において定められた「制度的聖地」としての性格を有する場である。しかし、近年明治神宮は、別の世界観によって「聖地」とされた。

「清正井」という湧水が、メディアでパワースポットとして紹介され、多くの来訪者を集めたのである。明治神宮や神道の世界観において「清正井」は、聖なる場所ではない。しかし、別の文脈において、そこは恋愛や厄落としの効果期待できる場として認知されたのである。ここに聖地の重複性を見ることが出来る。明治神宮は「制度的聖地」であるが、同時に大衆によってパワースポットとされる「イベント的聖地」を含み込ん

でいるのである。

前章で述べたように、現状の富岡は観光目的が「富岡製糸場や名所旧跡をみること」に集中しており偏りが見られる。これは、世界遺産や歴史的な価値が富岡の価値あるものとされ、また観光客によってもそのように認識されていると言い換えることができる。

しかし、このことは世界遺産であることや歴史的価値だけが富岡の魅力であることを意味しない。これまで見てきた先行研究からは、富岡というひとつの場所が、「制度的聖地」だけでなく、個人や人々の思い入れによって愛される場所、すなわち「個人的聖地」や「イベント的聖地」にもなりうる／なっている可能性が示唆されるからである。

場所が持つ意味は、一つである必要はないのである。

以上を踏まえ、本研究では、地域住民の方々や観光に携わるの方々への聞き取り調査を通じて、富岡に対する個人や人々の思い入れを探索する。その上で、「個人的聖地」及び「イベント的聖地」の可能性を検討していく。

## 第3章 調査結果

### 第1節 調査の概要と方法

本研究を実施するにあたって、富岡製糸場とその周辺地域での聞き取り調査を実施した。なお、聞き取り調査を実施するにあたり、富岡製糸場とその周辺の観光が、どのようなイメージから構成されているかを調査し、聞き取り調査の質問項目を設計するため、文献調査も併せて実施した。各調査の概要は次の通りである。

#### 第1項 文献調査

富岡の観光の現状や地域イメージの把握をするために、資料をもとに整理した。具体的には、一次資料（観光パンフレット・広報資料）・関連書籍（地域資源、聖地・創造的観光、世界遺産等）・雑誌（観光情報雑誌・ガイドブック）・論文を用いた。

#### 第2項 聞き取り調査

文献調査に加え、富岡周辺地域の住民や事業者を対象に聞き取り調査を実施した。地域住民や観光に携わる方々を対象として、①富岡の個人的な魅力や好きな場所、好きなもの、②それらにまつわるエピソードを伺った。

実査は、対面式のインタビュー形式にて実施した。一部対象となる方のご都合や希望に合わせて、質問項目を記した調査用紙を配布・後日回収する形式を取った。

調査期間は、令和2年8月27日～12月21日、回答者は48名であった。なお、インタビュー調査は新型コロナウイルスの感染対策として、インタビュー中のマスク着用、ソーシャルディスタンスの確保、消毒等、細心の注意を払って行った。

### 第2節 結果の概要

聞き取り調査では、好きな場所・もの・ひと、さらにそれに関するエピソードを調査した。その回答内容を表にまとめた（なお、調査用紙などで回答を得られなかった部分は不明と記載している）。

表 2 聞き取り結果の概要一覧

	調査日	性別	年代	場所/もの/ひと	具体的な内容・理由・思い
1	8月27日	男性	50代	富岡製糸場	創業当時の状態が維持されている（昔の価値が現代でも残っている）ため。
	8月27日	男性	50代	富岡製糸場	解説員の得意分野によって説明に個性が出る。
2	8月27日	女性	20代	富岡製糸場	製糸場の壁に書かれた落書きが、当時そこにいた人たちの存在を感じさせるため。

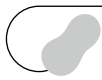


	調査日	性別	年代	場所/もの/ひと	具体的な内容・理由・思い
3	9月30日	男性	20代	岡重肉店	この店のホルモン揚げが美味しいため。
	9月30日	男性	20代	岡重肉店	部活の帰りによく立ち寄っていた場所であるため。
	9月30日	男性	20代	妙義	妙義ふるさと美術館の駐車場から見る景色が好きなため。
	9月30日	男性	20代	JAMES COOK	この店のアイスクリームが美味しいため。
4	9月30日	男性	20代	IL.PINO	この店の芝生のエリアは富岡市の歴史的なものとのギャップを感じることが出来る。晴れた日にそこで家族とゆっくり過ごす時間は心地よい。
5	10月22日	男性	20代	貫前神社	子どもの頃からよく行く場所であるため。
	10月22日	男性	20代	新洋亭	子どもの頃から訪れている場所であるため。田舎感あふれるところがお気に入りである。
	10月22日	男性	20代	おもちゃのストウ	マニアックなプラモデルが売っている。このお店の雰囲気が好きのため。
	10月22日	男性	20代	WonderGOO	自宅から自転車で行ける距離にあるお店で、子どもの頃からよく言っていた馴染みのある場所のため。
6	10月22日	女性	~10代	Crepe TOTTO	この店のクレープが美味しいため。中学生の頃から行っているお店である。
	10月22日	女性	~10代	どんぐり（軽食販売店）	よくタピオカを飲みに行くお店である。
7	10月22日	男性	20代	自然史博物館 <sup>1</sup>	中学生以下は無料で使えるバスケットボールコートがあるため。
8	10月28日	男性	20代	丹生湖	夏にはひまわりを見ることが出来るため。
9	10月28日	女性	~10代	自然史博物館 <sup>2</sup>	スケートボードやバスケットボールがそこで出来るため。
	10月28日	女性	~10代	ちゃきち	抹茶アイスの食べ比べが出来るため。友達とみんなで利き抹茶アイスゲームをして楽しむ。
10	10月28日	男性	~10代	田んぼ道	回答者が通学路として通っていた道である。青春を思い出すため。
11	11月3日	男性	50代	富岡の人の笑顔	富岡では心からの笑顔がたくさんあり、それが自慢である。
	11月3日	男性	50代	いりやま洋品店	地域づくりに関わっている仲間たちと店先で飲むことがある。気軽に集まることが出来る、そんな空気が好きなため。
	11月3日	男性	50代	いりやま店内	お客さん同士が店内で楽しそうに話している光景が好きなため。
	11月3日	男性	50代	富岡の自然	内匠の坂から見る夕日と浅間隠山（特に冬）の光景、妙義山から見る夕焼け、高田川の景色など、季節や時間ごとに変わる自然の風景を楽しめるため。
12	11月9日	女性	50代	城山	城山からの眺めが良いため。
13	11月9日	男性	50代	伊勢屋	この店のラーメンがおすすめである。
	11月9日	男性	50代	新洋亭	この店のかつ丼がおすすめである。
	11月9日	男性	50代	来々軒	この店の冷やしそばが好きだったため。 （*現在は販売されていない）
14	11月9日	女性	60代	富岡製糸場の裏側	鑓川から見る桜がきれいなおため。
	11月9日	女性	60代	富岡製糸場の裏側	水琴窟の音に癒されるため。
	11月9日	女性	60代	海源寺	東屋があり、そこでたまに学生が休んでいる場面をよく見かける。



	調査日	性別	年代	場所/もの/ひと	具体的な内容・理由・思い
15	11月9日	女性	30代	山	景色が綺麗なため。
	11月9日	女性	30代	街全体	自然がありながらも生活に困らない街である。
16	11月9日	女性	60代	山	下仁田富士と鹿岳、夕日と山々のシルエットがお気に入りである。
	11月9日	女性	60代	高瀬	富岡市立南中学校校舎から眺める夕焼けが好きなため。
	11月9日	女性	60代	カフェ	居心地の良いお店であるため。
	11月9日	女性	60代	長学寺	勉強会を通して60代になって初めて長学寺を知り、魅力的に感じたため。
	11月9日	女性	60代	得成寺	子どもの頃、縁日のときに出かけた場所である。
17	11月9日	男性	不明	富岡どんとまつり	山車が競り合う迫力がすごい。地区によって太鼓と笛の音色が異なるため、山車が競り合っている時によく聞いていると音が2種類ある、山車に実際乗ってるけど、山車の一番上に乗ると電線に当たるから高さがある。
	11月9日	男性	不明	大塩湖	この場所で駅伝大会や野鳥観察会があり、小さい頃から行っていた場所であるため。
	11月9日	男性	不明	妙義	紅葉を見ることができる。(回答者は富岡にある会社で働いている方で、訪れたお客さんにも紹介するという)
18	11月9日	男性	50代	裏路地	昔よく遊んでいた場所であり、人とのつながりがあるため。
	11月9日	男性	50代	妙義	ツーリングに行く場所であるため。
	11月9日	男性	50代	花見せんべい	天皇が来た時のおやつである。どこかへ行くときの手土産にもなるため。
19	11月9日	女性	不明	街並み	昔ながらの街並みが好きなため。そこで犬と散歩をする。
20	11月9日	女性	不明	自身の思い	昔からあるものも良いが、そこに頼るよりも新しいものを取り入れるべきである。古民家を借りてそこで2週間や1カ月お店を開く若者もいる。若い人には富岡を試し場として使ってほしい。若者がやってみたいことを応援したい。
21	11月9日	女性	不明	絵手紙の蔵	全国各地から来た絵手紙。
	11月9日	女性	不明	絵手紙の蔵	絵手紙によってつながった人たちが富岡に戻ってくる。
	11月9日	女性	不明	上信電鉄	かず子さん(新洋亭)の書いた絵手紙が書かれた絵手紙列車(上信電鉄)。
22	11月9日	女性	不明	岡重肉店	昔から店を利用していた子が大人になって家族を連れて店を訪れるため。
	11月9日	女性	不明	岡重肉店	この店のコロッセを仕送りのために買いに来る人がいる。
	11月9日	女性	不明	岡重肉店	お客さんが作ったこの店の人気メニューランキングがある。
23	11月9日	女性	70代以上	妙義山	美しい景色のため。
	11月9日	女性	70代以上	上州富岡駅	この駅のホームは景色が見えるように設計されているため。
	11月9日	女性	70代以上	銀座通り	昔から変わらない街並みである。





	調査日	性別	年代	場所/もの/ひと	具体的な内容・理由・思い
24	11月9日	男性	60代	黒岩	多くの人が集う場所である。
	11月9日	男性	60代	ちゃきち	昭和の古民家。庭の前を上信電鉄が通る心癒される時間である。
	11月9日	男性	60代	もみじ平総合公園	子ども連れて散歩や運動が出来るため。
25	11月9日	女性	10代以下	大空学園	友達と遊べるため。
	11月9日	女性	10代以下	アトリエ	夏に安くておいしいかき氷を食べることが出来るため。
26	11月9日	女性	20代	群馬サファリパーク	遠方まで行かなくても十分に楽しむことが出来るため。
	11月9日	女性	20代	シルクロード富岡店	小さい頃から家族みんなでこの店に食べに行っていた。回答者はマーレトマト（パスタ）がお気に入りであるという。
	11月9日	女性	20代	茶のまるいち園	抹茶ソフトクリームの抹茶の味が濃くて美味しいため。
27	11月9日	女性	30代	妙義神社	本殿へ向かう階段を登り切った後に振り返ると見える景色が好きである。
	11月9日	女性	30代	路地	さくら観光と鶴田商店の間の路地。
28	11月9日	女性	40代	富岡どんとまつり	お祭りの雰囲気が好きである。
	11月9日	女性	40代	お富ちゃん広場	お富ちゃん家から眺める四季折々の風景が好きなため。
29	11月9日	女性	50代	散歩道	朝の散歩道で見つけた富岡の風景。
	11月9日	女性	50代	山	妙義高田の農道から見える妙義山と浅間山。
30	11月9日	女性	60代	城山から見る市内	頂上から見る富岡の景色が好きなため（富岡製糸場の煙突など）。
	11月9日	女性	60代	市内から見る城山	春には満開の桜を見ることが出来る。
	11月9日	女性	60代	いりやま	好きなお店である。
	11月9日	女性	60代	いりやま	いりやま洋品店の店長さんが馴染みやすく、時々足を運ぶという。
	11月9日	女性	60代	山	バイパスから見える浅間山、妙義山の風景。
	11月9日	女性	60代	宮崎公園	ツツジが咲いている。
31	11月9日	男性	~10代	もみじ平総合公園	紅葉が綺麗。
	11月9日	男性	~10代	鑄川の河岸	静かで落ち着いた雰囲気がある。
	11月9日	男性	~10代	富岡どんとまつり	賑やかで伝統的なお祭りである。
32	11月9日	男性	20代	自然史博物館	歴史を知ることが出来るため。
33	11月9日	男性	30代	新洋亭	絵手紙公募展やその他の事業にも協力的である。
34	11月9日	男性	30代	CAFE・DROME	店舗が非常に協力的である。
35	11月9日	男性	30代	群馬サファリパーク	動物が好きなため。
36	11月9日	男性	30代	富光堂	値段が安く、懐かしい味のサンドウィッチが楽しめるため。
37	11月9日	男性	30代	富岡どんとまつり	山車。
38	11月9日	男性	30代	富岡製糸場	富岡のど真ん中に佇む日本近代化の象徴なため。
39	11月9日	男性	30代	妙義	日光東照宮に遜色のない妙義神社と妙義山である。
40	11月9日	男性	30代	ILPINO	絶品のイタリアンを楽しむことが出来るため。
	11月9日	男性	30代	ILPINO	この店のオーナーシェフがフレンドリーである。
41	11月9日	男性	30代	大村支店	そばとヒレカツ丼のセットがくせになるという。



	調査日	性別	年代	場所/もの/ひと	具体的な内容・理由・思い
42	11月9日	男性	30代	高田食堂	程よい辛さとコクのある「工女さんも愛したカレー」が寒い日に身に染みるため。
43	11月9日	男性	30代	ときわ荘	美しい庭園を眺めながら素晴らしい和風建築の中で食べる和食は格別であるため。
44	11月9日	男性	60代	妙義山	紅葉。
	11月9日	男性	60代	富岡製糸場	桜。
	11月9日	男性	60代	大塩湖	桜。
	11月9日	男性	60代	貫前神社	木漏れ日。
45	11月16日	男性	30代	あさひ	赤提灯のお店である。雰囲気が良い。
	11月16日	男性	30代	あさひ	女性にも人気のあるお店である。
	11月16日	男性	30代	あさひ	焼き鳥が美味しいため。
	11月16日	男性	30代	あさひ	この店の店主は広島から群馬に戻って富岡で営業をしている。
	11月16日	男性	30代	あんこと cafe	女性向けのお店である。
	11月16日	男性	30代	あんこと cafe	店内は落ち着く雰囲気、カウンターもある。
	11月16日	男性	30代	ラセール	ステーキやハンバーグなど、お肉が美味しいため。料理のボリュームが満点である。
	11月16日	男性	30代	ラセール	子どもの頃によくこの店に行ったため。
	11月16日	男性	30代	よしおか農園 (藤間さん)	よしおか農園の藤間さんは地域づくり・まちづくりに携わっていた。回答者は祭りや、好きな野球などで藤間さんと関係を持ち、他の人との関係を深めるきっかけになったという。
	11月16日	男性	30代	よしおか農園	農園で生姜、葱、青パパイヤを生産している。
	11月16日	男性	30代	岡田新聞店	独自にチラシを作成し、地域の方に情報提供を行っている。
	11月16日	男性	30代	富岡製糸場	LEGOブロックコラボやコスプレイヤーが多く集まる。
	11月16日	男性	30代	(有) 大塚水産	海鮮料理と卵焼きが美味しいため。
	11月16日	男性	30代	(有) 大塚水産	この店の海鮮は地元の方から絶賛される。
	11月16日	男性	30代	だん家	この店のホルモン揚げやもちもちベーコンが美味しい。
	11月16日	男性	30代	だん家	公式情報では埋もれがちだが、夜は飲み屋として営業している。
	11月16日	男性	30代	大塚屋	だし巻き卵が美味しい。
11月16日	男性	30代	パスタバル ミルティエロ	昼と夜で提供するメニューが違う。	
46	11月16日	男性	30代	桂花房	カフェっぽい雰囲気のある中華料理屋である。
	11月16日	男性	30代	桂花房	回答者の同級生が経営しているお店だという。
	11月16日	男性	30代	あさひ	大将が素敵な人である。
47	12月1日	女性	~10代	貫前神社	年越しのカウントダウンがここで行われる。
	12月1日	女性	~10代	らんらんカフェ	この店のオムライスとパンケーキが美味しいため。
	12月1日	女性	~10代	もみじ平総合公園	遊具もあり、ランニングも出来る。
	12月1日	女性	~10代	大塩湖	散歩やキャンプをすることが出来る。



	調査日	性別	年代	場所/もの/ひと	具体的な内容・理由・思い
48 <sup>3</sup>	12月21日	男性	50代	富岡の「人」	富岡という「箱」が好きなのではなく、富岡の「人（中身）」が好きなため。
	12月21日	男性	50代	富岡げんき塾のスタッフ	イベント参加は強制ではなく、やりたい人が参加している。やりたい人だけが来るため、本音でつながることが出来るという。
	12月21日	男性	50代	人との関係作り	時間をかけてその人を知っていくような関係作りが重要である。
	12月21日	男性	50代	いりやま洋品店の広告	手作りにこだわっている。そのほうが温かみや思いが伝わりやすい。さらに、交流も増える。
	12月21日	男性	50代	自身の思い	「地域を活性化させたい」という思いでイベントを主催しているわけではない。自分たちが「楽しい」と思っていることが結果として「地域活性化」になっていた。
	12月21日	男性	50代	自身の思い	イベントや地域づくりにおいて、外部から入りやすい「すき間」を作ることが重要である。外部から来た人にも役割を与えることで、そこが「自身の居場所」だと認知してもらえる。
	12月21日	男性	50代	富岡での生活	人の繋がり、日常が魅力。
	12月21日	男性	50代	富岡市内の街中留学	学生の街中留学は地域全体で協力して行われる。

1 正しくは「自然史博物館裏」。博物館の裏に屋外コートがある。

2 脚注1に同様。

3 48番の回答者は11番の回答者と同一。11番は調査用紙の回答内容であり、後日対面式のインタビューを実施した。

### 第3節 富岡の魅力：場所

富岡の魅力として場所について多く挙げられた。ここでは、4つ紹介する。

#### 【妙義】

妙義ふるさと美術館の駐車場から見渡せる山の景観や四季折々の花が楽しむことが出来る、妙義神社と周りの自然とのコントラストがすばらしいなど、妙義を「見て」楽しむと回答する方が多かった。「見る」という行為以外にも山に登る、ツーリングをするなど、その人自身がそこで体験したことも魅力として挙げられた。



図3 妙義山

#### 【富岡製糸場】

富岡製糸場内については、施設の歴史や価値についてというよりも、製糸場が稼働していた当時の面影を魅力に感じると回答する人が多かった。富岡製糸場でガイドを行っている方は、「製糸場のガラス越しに見る景色が好き」と言う。この方は、ガラス越しに明治時代（創業当時）を感じられるからだそうだ。さらに他の方からは、富岡製糸場の壁には当時製糸場で働いていた工女が書いた落書きが今でも残っていることから、かつてそこにいた人の存在を感じさせるという回答も得られた。

富岡市に住んでいるからこそそのマイナーな魅力も多く挙げられた。その一つが、富岡製糸場の裏手から見るのできる景色だ。住んでいる人しか来ない穴場らしく、春になると満開の桜越しに製糸場が見られるそうだ。他に遠くからも見える煙突が好き、製糸場の裏側の鏑川から見る桜が綺麗、水琴窟の音に癒されるといった話が挙げられた。

#### 【岡重肉店】

岡重肉店では、コロケやカツなど、数十種類の揚げ物が手ごろな値段で売られている。この店について回答した方は、「おかずとして買うのはもちろん、その場で食べるのもあり」「飲んだ帰りによく寄るお店」という。調査の中で度々岡重肉店の名前があがり、その際にお話を伺うと、皆この店のホルモン揚げ（ちく



わを揚げた富岡市のB級グルメ) が特においしいと語った。

### 【城山】

頂上からの眺めが好きと回答する方が複数人おり、富岡市街地が展望できそうで、中には「富岡製糸場の煙突が見えるのがいい」と回答する方もいた。下から見る城山も良く、春になると桜が満開になり、それがとてもきれいだという。

### 〈まとめ〉

富岡製糸場の当時の面影を感じる部分や城山から見える製糸場の煙突など、富岡市の情報サイトやパンフレットに載っていない、その土地で生活しているからこそ知り得る潜在的な魅力の発見につながった。

## 第4節 富岡の魅力：エピソード

その場所が魅力となる根拠として、以下のようなエピソードが例として挙げられる。

### 【アトリエ】

友達とかき氷と一緒に食べて、自分の舌を鏡で見るとすごい色をしていたので笑ってしまった。(～10代女性)

### 【宮崎公園】

ツツジの満開も良いが、散り始め、木の下に敷き詰められ日光を浴びたツツジの何とも言えない風情のある様子が印象的。(60代女性)

### 【富岡製糸場】

ガイド付きの見学を通じて、富岡の素晴らしさがさらに伝わる。富岡市の顔。城町通りから見た富岡製糸場の街並みはととても趣があり、観光客で賑わう風景を見ると嬉しくなる。(30代男性)

### 【群馬サファリパーク】

小さいころ保育園の遠足で何度も行った思い出のある場所。大人になった今の方が、行きたいと思う。都会のサファリとはまた違う、どこか懐かしいレトロな園内も良い。動物は何度見ても可愛くて、タイミングによっては特別なイベントがあるのも嬉しい。(20代女性)

### 【さくら観光と鶴田商店の間の路地】

母校の富岡東高校へ向かう通学路だったので、変わらない路地を見ると懐かしく感じる。(30代女性)

### 【富岡どんとまつり】

子供のころ、祭りが近づいてくると普段は出歩かない夜に近所の子供たちが集まって、いつも話す機会のないお祭り好きな大人とワイワイしながら太鼓の練習をするのが楽しかった。その時期は富岡の街中に提灯が飾られていてワクワクしたし、当日はどこにこんな人がいたのだろうというほどの人出で、お揃いのどんぶり(衣装)を着てスプレーで髪を染めたり化粧をしたりして、山車に乗り込み練習の成果をみせる。朝から夜まで、自分はもちろんみんなも祭りを楽しんでいる雰囲気がとても好き。(40代女性)

近代化の波が広がる中で都会過ぎず田舎過ぎない富岡らしい景色 (10代男性)

大人数での山車と山車が競り合う時の迫力にいつも感動する (30代男性)

### 【市内から見る城山】

学生の頃は部活で登り、就職した頃には頂上にあった城山園(飲食店)で飲み会、夜景も素敵だった。現在は孫と城山に登り、桜やスイセンを楽しむなど、大好きな場所でたくさんの思い出がある。(60代女性)

### 【いりやま洋品店】

60年前、お正月が近づくと新しい衣類を買う習慣だったので、母に連れられて買いにいった。「いりやま」は混雑していた。正月の初売りも大勢の人で賑わっていたのを思い出す。現在ではシニアの洋服が取り揃えて

あり、好きな用品店の一つとなっている。(60代女性)

#### 【自然史博物館】

小学生の遠足で行き、思い出に残っている。(20代女性)

#### 【富光堂】

会社の社員さんから紹介され来店したら想像以上に美味しかった。(30代男性)

#### 【妙義山】

移りゆく自然の中での散歩はほっとするひととき。妙義山を登りきった時の爽快感と絶景は最高。自然の中で食べるお弁当はとっても美味しい。(60代男性)

登り切ったときは達成感がある。景色がきれい。(30代女性)

#### 〈まとめ〉

住民の方だけが持つ特別なエピソードによって、それぞれの場所や建物に見出す魅力が異なることが分かった。富岡どんとまつりのイベントでは山車の競り合いについて回答する方もいれば、準備期間の雰囲気について回答した方もいた。同じ場所でも十人十色のエピソードがあり、1つの場所に対して複数の見え方が存在することが分かった。

### 第5節 富岡の魅力：人

聞き取り調査を行う中で、場所やもの以外に「人」が魅力だという回答もあった。ここでは人とのつながりに関するエピソード1つと、多くの名前が挙がった岡重肉店の店主と女将さん、いりやま洋品店の入山寛之さん、新洋亭の井上かず子さん、割烹かわら屋の女将さんの4人についてご本人から伺った話やエピソードを含め紹介する。

#### 【人とのつながり】

ある30代の男性はよしおか農園の藤間さんに出会い、富岡での人とのつながりを感じる事が出来たという。

この方は一度県外に出ていたが、富岡に戻ってきて信用金庫で11年間働いていた。長く働いていると仕事も覚えてきて面白いと感じるようになったが、富岡に戻ってきた当初とのギャップが生じ、何のために戻って来たのかと考えるようになったという。そんな時に七日市の第3区の場所でお祭りがあった。そこで出会った藤間さんと共通の趣味である野球で意気投合。そこから様々な人を紹介してもらい、その人たちにいろいろお世話になったことで、何か恩返しをしたいという思いから富岡市役所で働くことを決めたという。「富岡市とともに生きていく、一蓮托生みたいな感じで。」富岡での出会いとつながりから富岡と運命を共にすることを決めたそうだ。人とのつながりが富岡の一番の魅力だとこの方は語った。

#### 【岡重肉店】

富岡には岡重肉店という揚げ物屋さんがある。外装はどこか懐かしい雰囲気を感じる古びた感じの建物である。決して目立つ場所にあるわけではないが、路地へ入り奥へと歩みを進めていくと揚げたての良い香りが出迎えてくれる。手頃な値段のうえにとっても美味しいのが特徴的なこの岡重肉店は、子どもから大人まで人気な場所である。

岡重肉店には、子どものころに限らず大人になってからも店を訪れる人は多くいるという。大人になり今度は家族を連れて買い物に来る人もいるそうだ。富岡から離れてしまった人もこの岡重肉店の味を忘れられない。県外へ行った大学生の子は地元へ帰った時には必ず寄るといふ。また、仕送りの際に岡重肉店の商品を送ってもらう人もいふそうだ。

この店は学校帰りに学生が寄っていくなど、青春としての思い出の場所でもあるという。店頭にはメニューランキングが貼られている。これは地元の小学生・中学生・高校生たちがそれぞれの学校の人気ランキングとして独自に作ったもので、世代を超えて受け継がれている。



図4 岡重肉店にある学生の人気メニューランキング

岡重肉店の店主と女将さんも優しいと人気である。我々も調査中、数回この店を訪れた。そこで惣菜を買った際には店主の方が気さくに声をかけてくれ、ホルモン揚げをおまけしてもらったこともあった。この体験から、岡重肉店の店主や女将さんの気さくな性格がうかがえた。

**【新洋亭 井上かず子さん】**

井上かずさんは新洋亭という和洋レストランを経営している。そこは明治から創業を開始しており、メニューのひとつであるカレーは創業当初から作り方が変わっておらず昔ながらの味を楽しむことができる。聞き取り調査の中で、明治から長く続けているからこそ感じられる「昔ながらの雰囲気」が好きという方がいた。また、かずさんは新洋亭へ来た人に気軽に話しかけるなど、訪れた人との交流がある。ゼミで新洋亭を訪れた際にもかずさんから話しかけてもらった。昔から変わらないお店の雰囲気と、そうしたかずさんとの交流から、新洋亭とそこで働くかずさんが魅力と回答する人が多数見受けられた。



図5 蔵に保存されている絵手紙

またかずさんは趣味の絵手紙で、何百という数の人たちと交流をしている。店内には全国各地、そして海外の人ともやり取りをした絵手紙が至る所に飾られている。たくさんの人と交流してきたため、絵手紙は店内に収まりきらず、近くの蔵にたくさんの絵手紙を保存して公開している。

絵手紙がきっかけで、やり取りをしている人が富岡へ足を運び、かずさんに会いに来ることもあるという。また、かずさんと仲の良い男性の提案で上信電鉄に絵手紙が飾られることが決定し、「絵手紙列車」として現在も走っている。「絵手紙列車」を知ったあるブロガーの方が新洋亭を訪れ、その方にかずさんはお店の広報をお願いすることにしたそうだ。その広報を見た別のブロガーの方の影響を受け、かずさん自身もブログを始めたそうだ。かずさんは、人との交流について「人と人を繋げるのが好きなの。みんなで共有してみんなで楽しもうって、それでいいと思うの。だんだんそうになっていかなきゃダメだよ。世間は狭いんだから」と自身の考えを語っていた。

**【いりやま洋品店店主 入山寛之さん】**

入山さんは、衣料品店「いりやま洋品店」としてお店を構えるほか、まちやど「蔭屋」のオーナーであり、「富岡げんき塾」を取りまとめる塾長でもある。様々な活動をしている傍ら、富岡げんき塾による「げんきフェスタ」というイベントを毎年開催しており、今では21回目を迎える恒例行事となっている。このげんきフェスタに参加しているスタッフは子どもから大人まで幅広い世代で、みな自主的に関わっているそうだ。



図6 入山さんとゼミ生

入山さんは人とのつながりについて、「不確定事業を一緒にやってもらったり色んな人に助けってもらったりだとか人の繋がりが面白くなってしまった。まあみんな事業だからってじゃなくて、面白そうだから来てくれる。自主的に来るといふか。私たちの会自体も任意で、人と繋がるきっかけも全部個人的にやってるんです。」と語った。しかし最初からうまくいっていただけではないそうだ。試行錯誤した結果、繋がった人に対してイベントのお誘いはするものの、強制するつもりはなくむしろ自由に決めてもらって来たい人が参加するという交流の始め方に今はなっている。そして、どうやって外と中が繋がるかという質問に対しては「なんか素を出して、みたいなの。どっちでもいいよ。というドアだけ開けとけば来たい人は自然と入ってくる。どんな形であれ一度繋がればあとは自由だから。」と回答してくれた。

### 【割烹かわら屋 女将さん】

割烹かわら屋さんでは、富岡市の郷土料理「こしね汁」や、季節の食材を使った料理を味わうことが出来る。「かわら屋」という屋号は、ご先祖が茅葺き職人として富岡製糸場の屋根の修復に携わっていたことから付けられている。

かわら屋さんの女将さんは、来てくれたお客様を大事にしている。もう会わないかもしれない、そんな一期一会の出会いを大切にしているそうだ。来てくれたインバウンド観光客などに、ガイドの方も知らないような富岡のことをよく教えていたという。また、女将さんが好きな桜の景色や好きなお店を訪れた人におすすめしているそうだ。

### 〈まとめ〉

こういったヒト1人に対して、数十、数百の人が集まり、大きなつながりができている。内側の人だけでなく、外から来る人にも「すき間」を作って受け入れる、そこで自分の好きを見つけたり、誰かと出会ったりするなかで、居場所をみつけていく。そんなオープンなつながりや、その鍵になっているヒトが、富岡の「好き」や「魅力」となっていることがうかがえる。

## 第6節 小括

調査結果より、場所やそれに関する思い出など「モノ」の魅力だけでなく、「ヒト」に関する魅力が出てきた。

第3節では、製糸場の壁の落書きや城山から見える富岡製糸場の煙突など、その土地で生活しているからこそ知り得る魅力の発見があった。また、第4節では同じ場所や空間においても、それぞれの方の持つエピソードによって、その場所や空間が複数の見え方をしていることが分かった。妙義山や富岡どんとまつりの例がこれにあたる。さらに第5節では、新洋亭の井上かず子さんや、いりやま洋品店の入山寛之さんなどの例を紹介した。その方々は、人との交流を積極的に行い、楽しんでいることが分かった。さらに、交流によって繋がった人たちから魅力として認識されているヒトであることがうかがえた。

以上のことから、富岡には「モノ」の魅力の他に「ヒト」が魅力になっていることが明らかとなった。

## 第4章 考察

### 第1節 個人の思い入れのある場所とエピソード：個人的聖地の息づく富岡

先行研究から、富岡と言う場所が「制度的聖地」だけでなく、個人や人々の思い入れによって愛される場所、すなわち「個人的聖地」や「イベント的聖地」になりうる／なっていることが示唆された。地域住民の方々や観光に携わるの方々への聞き取り調査を実施した結果から、この点について考えてみたい。

富岡市の地域住民の方々や観光に携わる方が持つ、富岡に対する思い入れはどのようなものなのか。それは、情報サイトやパンフレットには載っていない、地元の人だからこそ知っている場所だということが分かった。具体例として、次のような回答がある。

「富岡製糸場のガラス越しに見る景色が好き。明治時代（創業当時）を連想させる。（富岡製糸場解説員）」  
「富岡製糸場の壁には当時製糸場で働いていた工女が書いた落書きが今でも残っていることから、かつてそこにいた人の存在を感じられる。（市役所職員）」

これらの回答は、ただ単にその場所全体が好きというのではなく、その場所にある壁の落書きやガラス越しの情景など、より細かく些細な部分に魅力を感じていたことがわかる。

富岡を制度的聖地として認識すると、歴史的価値の観点から製糸場を見てしまうが、地元の方々は、同じ場所であっても既存の魅力から外れた視点から価値を見出している。それはつまり、その人だけが持つ思い入れの場所であり、その人しか知り得ない潜在的な魅力になっていると言えるのではないだろうか。

先に、「場所とモノ」という対象があり、そこから魅力を感じている方々を例に挙げた。

さらに、場所に対して独自のエピソードを持ち合わせることで、魅力と感じている方もいた。子どもものころに行った群馬サファリパーク、通学路として毎日通っていたさくら観光と鶴田商店の間の路地等、より細かい



個人の記憶と密接に結びついた回答である。

同じ地域に住む方々であっても、その人が持つ富岡でのエピソードは多種多様であることが分かった。

一見何も変哲のない場所が、それらのエピソードによって色濃く意味づけられ、個人的な愛着が生まれているのである。つまり富岡には、個人的な思い出や記憶、体験などのエピソードとその場所に対する愛着の結びつきを見いだすことができるのだ。

これらの例は、先行研究で述べた「個人の思い出によって愛される場所」、つまり個人的聖地に当てはまるといえるだろう。

## 第2節 だれかの「好き」が共鳴する：イベント的聖地の可能性

富岡では個人的聖地と、イベント的聖地の可能性もあることを念頭にいれ調査を行ってきた。先に述べたように、主にその個人的聖地に当てはまるものは「場所やモノ、コト」であることが明らかになった。

さらに調査を進めていく中で、誰かにとって大切な場所や空間が、他の誰かにとっても大切なものとなり得る可能性が見いだされた（これは、私たち自身が感じていたことでもある。お話を伺う中で、これまで素通りしていた場所が、エピソードの存在によって、魅力的な場所として立ち上がってきたからだ）。

例えば、それはかず子さんの話に見いだすことができる。

新洋亭のかず子さんは、お店や絵手紙の蔵に思い出を持っていく。

新洋亭を訪れたお客さんとの積極的な交流や、趣味の絵手紙を通して全国各地の人と交流をしている。人と人を繋げるのが好きであるというかず子さんは、自身も人との交流が好きな方である。そんな、人との交流を感じられる場所が新洋亭や絵手紙の蔵なのだ。

この2つの場所はかず子さんだけが思い出を持っていくわけではない。お店のお客さんや、かず子さんと絵手紙のやり取りをしている方々にとっても思い出のある場所である。全国各地から絵手紙でかず子さんとつながった方々の中には、富岡に実際に足を運ぶ人も多くいるという。その人たちが富岡を訪れる誘因となっているのは、かず子さんの存在なのである。かず子さんに会いたいという理由で新洋亭を訪れ、かず子さんとの交流の証を絵手紙の蔵に見つけに行くのだ。

このことから新洋亭や絵手紙の蔵は、かず子さんの思い出のある場所であり、かず子さんと交流する人のつながりの中でも思い出のある場所になっていることがわかる。

よって、個人の思い出によって愛される場所（＝個人的聖地）である新洋亭や絵手紙の蔵は、かず子さんと交流をしている方々にとっても思い出によって愛される場所なのだ。

同様に、入山さんの「自分が楽しめる面白い」試みは、多くの人を引きつけ、またそこで新たな関係が生まれていた。

だれかの「好き」が他のだれかに共鳴し、ある場所が多くの人にとって大切な場所となっていく（＝イベント的聖地）、そのような可能性が見いだされたのである。

## 第5章 おわりに

### 第1節 研究結果より：「好き」を知ってもらう

本研究では、富岡市が既存の限られた魅力だけでなく地域全体を通して魅力の詰まったまちであるということが明らかとなった。さらに1つの場所において複数のエピソードが存在することも結果から見てきた。だがこれらの思い出や愛着、エピソードは、他者が容易に知ることが難しい状況にあることが課題として見いだされた。

このことから、富岡市観光ホームページ（しるくる富岡）などで紹介される観光地に、我々の調査で新たに発見した住民の方々の持つエピソードと共に情報発信することで、富岡を様々な角度から眺め、関心を持ってもらえるのではないかと考えた。

#### 【Instagramの活用】

そこで我々は今後の展望として、Instagramの活用を試みることにした。

これまで我々が集めてきた富岡市の個人的な魅力の数々を写真と共に発信することで富岡を身近に感じてもらえるのではないかと考える。個人的な記憶や体験のエピソードとその場所に対する愛着が結びつき、その場



所は誰かの特別な場所となっていた。そしてそれらは他の誰かが共感可能なものともなり得るからだ。

### 【特徴】

Instagramは多くの方が利用しており、簡単に投稿できるため、多くの情報を多くの方に届けることが可能となる。県外や県内の方のみならず、地域住民の方々にも新たな魅力を知ってもらう機会にもなり、より多くの方が富岡の様々な地に向かうことができるのではないかと考える。

だが、ただ場所を紹介するだけではない点にこの投稿の特徴がある。お店を紹介する場合、そのお店のおすすめ商品やお店の情報にくわえ、そのお店に息づくエピソードを紹介することに特徴がある。

### 【試験運用】

右の写真のように、インタビューで得たエピソードを添え、その場所の情報などを書き込み写真とともに投稿している。これからも投稿内容を精査しつつ発信を続け、より多くの方に富岡の様々な側面を知ってもらえるようにしたいと考えている。



図7 エピソードを添えた投稿の例

## 第2節 総括

本研究では、聖地にまつわる先行研究を参照しつつ、富岡市の「個人的聖地」及び「イベント的聖地」の可能性を調査してきた。聞き取り調査を通して、何気ないことや思いもよらない場所、さらには人に、個人の思い入れや魅力があることが明らかとなった。また、それらの思い入れや魅力は他者とも共有されていることが明らかとなった。

聖地の類型に当てはめれば、富岡はユネスコや歴史によって価値が認められる場、すなわち「制度的聖地」としての性格を色濃く見いだすことができる。しかし、本研究の結果からは、富岡は、個人が特別な思いや愛着を寄せる場所（「個人的聖地」）、さらにはそれが他者と共鳴して複数の人にとって特別な場所（「イベント的聖地」）となっていると考えられた。

これはつまり、富岡は制度的聖地に限らず、違う魅力を放つ場としても多くの可能性をもっているということなのだ。

富岡の魅力は、一つではない。

既知の魅力である富岡製糸場などのほかに、個人な愛着や思い入れが記憶や体験とともに染みついている。そしてそれらは個人だけでなく他人にとっても価値のあるものとなることがある。それらをより多くの方が知ることが出来る「何かしら」の形があるとしたら、様々な富岡・愛にあふれた富岡がより鮮明に見えてくることだろう。Instagramの活用は、その「何かしら」の一例である。我々が本調査で触れることが出来たような思い入れや魅力が、より多くの人に伝わることを願う次第である。

## 謝辞

本研究の実施に当たっては、富岡にお住まいの方々や富岡で活動されている多くの方にお世話になりました。

皆様にお話し頂いた、「好き」やそれにまつわる「エピソード」、まちへの思いは、私たちにとっても大切な「好き」になりました。お話し頂いた多くのことをまだまだ紹介しきれませんが、今後もなんらかの方法で発信をしていきたく思っています。

大変お忙しい中、快く迎えてくださり、沢山お話をしてくださり、本当にありがとうございました。この場を借りて御礼申し上げます。

## 参考文献

- 岡本亮輔（2015）『聖地巡礼：世界遺産からアニメの舞台まで』,中公新書
- 群馬県（2016）『平成26年度「富岡製糸場と絹産業遺産群」年報』,群馬県企画部世界遺産課
- 群馬県観光局観光物産課.平成26年 観光客数・消費額調査（推計）結果.群馬県.
- しるくる富岡 富岡市観光ホームページ「富岡製糸場と絹産業遺産群」



- <<http://www.tomioka-silk.jp/tomioka-silk-mill/guide/overview.html>> (2021. 1.24閲覧)  
 高崎商科大学地域連携センター (2019) 『富岡製糸場周辺における観光客満足度調査簡易報告書』  
 <<https://worldheritage.pref.gunma.jp/pdf/2014-nenpou.pdf>> (2021. 1.24閲覧)  
 富岡市世界遺産まちづくり部富岡製糸場課 (2014) 「史跡・重要文化財(建造物)旧富岡製糸場 整備活用計画」.富岡市 <<https://www.city.tomioka.lg.jp/www/contents/1000000000335/files/seibikatuyoukeikaku.pdf>> (2021. 1.24参照)  
 安田裕子 (2012) 『不妊治療者の人生選択 ライフストーリーを捉えるナラティブ・アプローチ』 新曜社

**共愛学園前橋国際大学 岡井 宏文ゼミ**  
**2020年度「絹ラボ」調査参加者一覧 (五十音順・所属は2021年1月現在)**

糸井 真緒	共愛学園前橋国際大学	国際社会学部	国際コース (ゼミ長)
加藤 純美	共愛学園前橋国際大学	国際社会学部	国際コース
小坂橋実友	共愛学園前橋国際大学	国際社会学部	国際コース
小田 健	共愛学園前橋国際大学	国際社会学部	国際コース
清水 幹太	共愛学園前橋国際大学	国際社会学部	国際コース (副ゼミ長)
関口 滢奈	共愛学園前橋国際大学	国際社会学部	国際コース (副ゼミ長)
藺田 朱音	共愛学園前橋国際大学	国際社会学部	国際コース
高橋かれん	共愛学園前橋国際大学	国際社会学部	国際コース
庭山 彩乃	共愛学園前橋国際大学	国際社会学部	国際コース (絹ラボ代表)
野田 裕貫	共愛学園前橋国際大学	国際社会学部	国際コース
浜崎 梨穂	共愛学園前橋国際大学	国際社会学部	国際コース
茂木 颯汰	共愛学園前橋国際大学	国際社会学部	国際コース
宮田 壘	共愛学園前橋国際大学	国際社会学部	国際コース

**指導教員・編集**

岡井 宏文 共愛学園前橋国際大学 国際社会学部 国際コース 専任講師

本報告書は、以下の研究助成による研究成果の一部である。  
 2020年度 シルクカントリー群馬プロジェクト実行委員会 世界遺産「富岡製糸場と絹産業遺産群」研究奨励事業「絹ラボ」